

「谷川連峰・会津・越後」
(地域研究)

私の歩いた山々 「谷川連峰・会津・越後」

一、谷川連峰（上越国境）の山々

谷川岳・万太郎山・仙ノ倉山・平標山
谷川岳・茂倉岳・蓬峠・朝日岳・白毛門
吾策新道・万太郎山
巖剛新道・谷川岳・天神平
旭原・大源太山・七つ小屋山
湯沢・平標山・仙ノ倉山
三国峠・大源太山
土合・白毛門

二、尾瀬・会津の山々

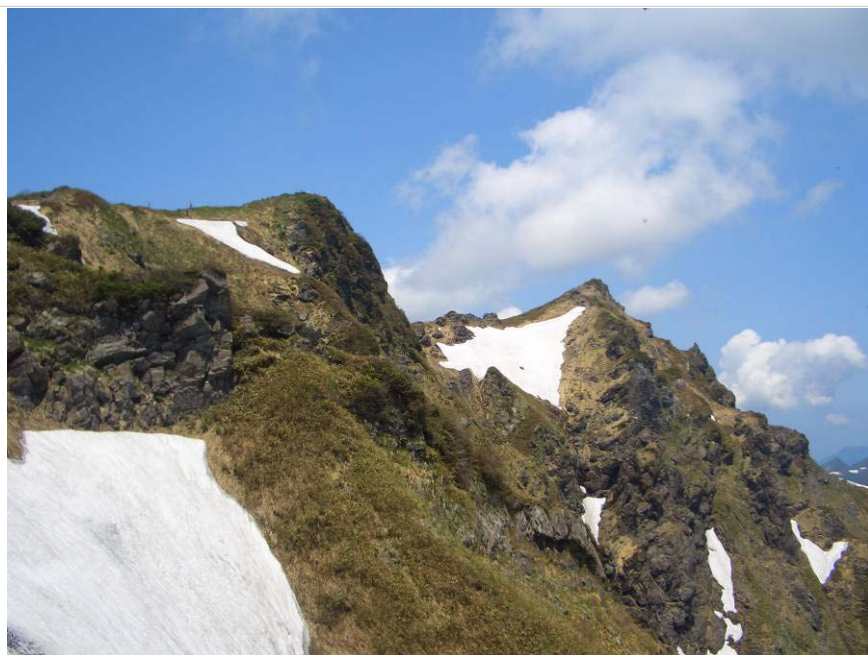
尾瀬・至仏山
川場・上州武尊山
(尾瀬・燧ヶ岳)
(尾瀬ヶ原)
(会津駒ヶ岳)

三、越後の山々

(巻機山)
(八海山・越後駒ヶ岳・中ノ岳)
(平ヶ岳・浅草岳・守門岳)



一、谷川連峰（上越国境）の山々



↑ 谷川岳・西黒尾根上部からトマノ耳（左）・オキノ耳

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「谷川岳・万太郎山・仙ノ倉山・平標山」

（二〇一〇年 八月五・六日）



↑ 大障子避難小屋から夕陽に染まる赤谷川本谷

●登山口までのアクセス

前回の谷川岳・馬蹄形縦走と違い、国境稜線の縦走は、登山口と下山口が異なる。色々考えたが「車利用」はかなりムリがあり、公共機関利用で計画した。行きは上毛高原まで、帰りは越後湯沢から新幹線を使うという豪華さ。但し、交通費はえらく高いものについた。

上毛高原からはロープウェイ駅まで直通バスが接続していた。水上駅から大勢が加わり、見なれた道をバスで走る。八時四五分に着いた。天神平には九時、シヤツを脱いだりモタモタして一五分過ぎに歩き始める。テレビスタッフの風情の人たちが白毛門の山々を写していた。

●天神平から避難小屋

天神平はまだ青空が広がり、これからの暑さを予感させていた。田尻尾根の分岐など、見なれた道標をガイド時間通りに過ぎ、ほぼ予定通り避難小屋に着いた。

中には大勢が休んでおり、外の方が涼しい。平日なのに結構人が多い。夏休みなので小中学生連れの夫婦も何組か見られた。若い人たちもいたが、その他大勢は中高年たちだった。

●避難小屋から肩の小屋

小屋を過ぎて森林限界が近づいてくると、霧が流れるようになった。風が加われば、暑さは和らぐ。ここから天狗のたまり場まで一時間、天神ザンゲ岩まで一時間と、ガイドのタイムや前回の時間より、暑さと荷の重さ(今回は一キロ)で、さすがに余分にかかった。

肩の小屋の下の、前回は豊富な雪田だったところが、雪が全く消え、つらい階段が出ていた。もう一二時を過ぎており、早出の日帰り組はどんどん下つてくる。やっと肩の小屋の広場に出た。何回も登っているトマノ耳・オキノ耳は、ガスッているし時間的にも厳しいのでパスした。丁度出てきた肩の小屋小屋の管理人さんに、大障子避難小屋や水場の様子を聞いて、問題な

し、とのことなので一二時四〇分に出発する。

●肩の小屋下に素晴らしいお花畑

国境稜線は、ここから万太郎山(かつて吾策新道から往復している)までと、万太郎から仙の倉山(ここも元橋から平標山經由で往復している)の間の稜線が私にとって未踏の領域となる。小屋前のベンチで少し腹ごしらえした。

肩の小屋からオジカ沢の頭を目指す。霧に巻かれた尾根を下ると、お花畑が出現した。ここは人の知らない秘密の花園だろう(小屋から一〇分ほど下ったところ：花の写真の半分はここで写した)。

●肩の小屋から中ゴ―尾根分岐

霧の尾根筋を歩く。時折、俎嵜(まないたぐら)や天神尾根、分け入る谷川南面の沢(オジカ沢・ヒツゴ―沢)が、霧の切れ目に広がる。人が通らず下草・笹

の切り開きがされていない。水滴で下半身がぐっしょり濡れる。しかも足場の濡れた下りで疲れがどっと来る。ほどなく中ゴ－尾根の分岐に出た。霧が晴れて尾根筋が見えた。

●中ゴ－尾根分岐からオジカ沢の頭

尾根の分岐から、なだらかだった国境稜線が痩せて、岩ゴツの険しい道筋となり神経を使う。霧が深く両側の谷筋が見えず高度感がないのが救い（残念?）。稜線を伝う強い風（霧の流れ）にバランスを崩す。

途中、岩尾根で、草刈り機で切り開き作業をしている人に出会う。何年か前、万太郎山の登りでも出会ったことがある。お礼を言つて先に出る。そこから先は、さらに笹が深くなり腰を越える深さとなる。

●オジカ沢の頭から避難小屋

道は狭く厳しくなったり、穏やかに広がったりと変

化が激しい。天気も急に日差しが出たり、瞬く間に霧に包まれたりと、こちらも忙しい。そろそろ体力的にもしんどくなってきたころ「オジカ沢の頭」に着いた。細長い道標のみの頂きだった。すぐそばにカマボコ型の避難小屋があった（狭苦しくせいせい三人：きれいではあったが）。

オジカ沢の頭から下りに入ると、霧が部分的に晴れて、稜線がなだらかに下りながら続いているのが見えた。また霧の中に入る。しばらくすると、突然大きなピークが眼前に現れる（小障子の頭）。これを越えると、またなだらかな尾根が広がり、その先に今夜泊まる「大障子の避難小屋」が見えてきた。さすがにホツとした。

●大障子避難小屋（水場往復）

一五時三〇分に小屋に着いた。ドアを開けると「ムッ」とする。中はこぎれいで一〇人近く泊まれる広さ。この日は私ひとり占めできるだろうか。とりあえず荷

物を置いて、水場に行く。案内に従い笹中の道を下り、ガレ場に出る（ガイドで道悪しとある）。一〇分余りで水音が聞こえ、水場に出た。結構な水量だ。思いつきり飲み、顔や頭を洗う。雷がして大粒の雨が落ちてきた。三・五リットルの水を確保して小屋へ戻る。

小屋にはやはり誰も着いておらず、今宵はまた独りぼっちの宴になる。新品のマットが調子いい。さつそくウイスキーの水割り、かきピーとさんまかば焼きの缶詰がつまみ、食事は牛丼、外はまだ明るい。

明かりとりや換気のために開けてあるドアから、谷川岳・オジカ沢の頭（トマノ耳・オキノ耳はちょうどオジカ沢の頭の陰になる）に続く尾根シルエットとなり浮かび上がる。夜の帳が下りる。

●小屋で出発準備

夜中の一二時ごろに目覚める。まだコップにウイスキーが残っているのに寝込んでしまったようだ（八時

前？）。小屋前で放尿、山々はまだガスの中、天空には月と星が見えていた（天気を期待）。

三時少し過ぎに起きて朝食（ラーメン十切り餅）の用意をする。やはり流動食に限る。若い時の山岳会時代を思い出した。独り住まいのせいか荷物を広げてしまい、片づけに時間がかかった。

●小屋から大障子の頭

充分明るくなった四時四〇分に出発。天気は期待外れで深い霧に包まれている。気温は二〇度少し、涼しいというよりやや寒い。稜線での風のこともあり、重ね着をして出発。体が慣れる程度で「大障子の頭」に着く。ここから一時間強で、最初の目標ピーク「万太郎山」だ。

●大障子の頭から万太郎山

大障子の頭からせっかく登ったのにまた下りが続

いた。たた、霧の中にお花畑が続く。黄色のマルハタケブキや白いキク系の花が群生している。アカバシモツケソウの赤い色が霧の中にひとときわ艶やかだ。

霧の中にボウーと次のピークが浮かび上がる。思っ
たより近く登りきると、次のピークが現れる。花を見
ながら、下草の水滴に下半身ぐしょぐしょになりなが
ら、ひたすら登る。何度か平の尾根に出て山頂かと思
わされるが、また登りが現れる。右から尾根が合さり、
見覚えのある「道標」が霧の中に浮かび、吾策新道か
ら万太郎山への道に躍り出た。

●万太郎山・山頂

道標から五分ほどで万太郎山の「山頂の道標・三角
点」に着く。六時少し過ぎだった。涼しくて快調と言
っていいだろう。登頂を祝うかのように、霧が晴れ天
空に青空が広がった。行く手の「エビス大黒」や「仙
の倉山」が浮かび上がる。あわてて写真の用意をして
いると、あつという間に霧の中になった。

一休みの間に、昨日の「夕食の牛丼」の残りを食す。
先が長いので休みごとに少しづつ食べることにして
いる。結構食べられる。草や笹の水滴のせいで靴のな
かまで濡れている。脱いで靴下を絞る。靴もさかさま
にして水切りをした（靴はちゃんと防水処置してきた
のに：水の中を歩いたみたいだ）。

●万太郎山から毛越乗越、エビス大黒の頭

万太郎山を過ぎると、なだらかな広がりのある尾根
の下りが、また狭く切り立った稜線の道になる。背の
低い草木が道をふさぎ、神経を使うし、とても歩きづ
らい。晴れていれば結構な高度感が出るのだろうし、
左右の展望も素晴らしいのだろう。

ここでも花たちが慰めてくれる。霧・滴で花がより
彩えている感じだ。越路の避難小屋（狭い）を過ぎ、
毛渡乗越に着く。ここから水場や赤谷川への道（エス
ケープルート：ガイドでは点線）があるが、あまり歩
かれていないようだ。

今回の国境稜線のネットの記録をみると、ここ毛渡乗越（二五六八m）から「エビス大黒の頭（一八八〇m）」への登りが最も辛い、とある。確かに、万太郎山をこなしてかなり下り、それから標高差三〇〇mの登りだから。でも、これが縦走なのだし、その醍醐味でもあるわけだ。

●エビス大黒の頭から仙の倉山

エビス大黒の頭への一時間近い登りは、覚悟していただけに意外とあっけなく着いた。山頂は道標があるだけで霧の中、殺風景だった。ここから赤谷川本谷の滝が見えるはずだが、一向に晴れない霧に望みを断たれている。ここの頭も「オジカ沢の頭」と同じく、結構な山容だと思うが「〇〇の頭」と名付けられ尾根の単なるピークの印象でかわいそうなものだ。

ここから谷川連峰の最高峰・仙の倉山（二〇二六m）への登りが始まる。約一時間、エビス大黒の頭への登りより楽だ、との解説に期待して出発する。エビス避

難小屋近くで、霧が一部晴れ、青空に仙の倉山が浮かび上がった。こちらから見ると、結構どっしりとした山容だ。

●仙の倉山・山頂

仙の倉山の登りは、振りかえって避難小屋を下に見ながらの登りとなる。時折、陽が射して草花の色彩がさらに映える。しかし、風が通らないととても暑い。草いきれに参る。晴天の縦走だったらどうだったのだろうか。最後の登り付近でまたお花畑が広がっていた。花の写真を撮るという名目で休み休み登る。ほぼ同じ高さのかなたのピークに人影が見えた。手を振ると振り返ってきた。仙の倉山の山頂だ。間違いない。

山頂には三組の男女パーティが昼食や休憩の最中だった。やつと人に会えた、話ができた。写真を撮ってもらおう。ここからは、帰りの時間、バスの時間が読める。計算してみるとあまりゆつくりできない。

●仙の倉山から平標山

誰もいなくなった山頂を出発する。ここは一度往復しているの、また安心して疲れが出始めたので、ゆつくりと休まずに、歩きやすい木道に行く。長かった国境稜線を思い返しつづ。一旦下ってゆるやかに登り返す。さらに平標山へ、急ではないが長めの石の階段の登りが待っていた。

●平標山・山の家から林道・登山口バス停

平標山の山頂にも、先のパーティはすでに誰もいなかった。時間を考えて休みもせず山の家への下りに入る。懐かしい木の階段が長々と続く。平標山の家の赤い屋根が見えてきた。湧水を補充させてもらい、汚れたタオルを洗い、顔を拭く。

山の家から整備された道を林道まで下る。出会いでズボンと靴の泥を落とし、登山口・駐車場、バス停まであと一時間、頑張った。

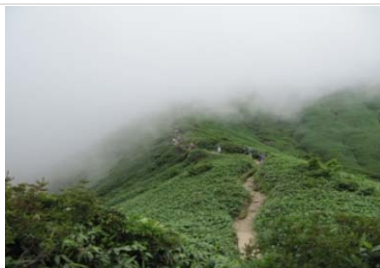
●まとめ

先の「馬蹄形縦走」に続き、今回の「国境稜線縦走」を終えて、ひとまず谷川連峰の範囲の課題は達成した。この地域での研究としては、これから越後の山々、尾瀬を含む会津の山々が、計画の対象になる。

今回、天候は良くなかったが、変調をきたしていた私の身体にとっては良かったのかもしれない。展望には恵まれなかったが、いくつかのお花畑や、はじめてみる花にも恵まれ、いい山旅だった。



① 天神平・リフト乗り場



② 避難小屋上の霧の天神尾根



③ 谷川岳・肩の下の階段



④ 国境縦走路降口から肩の小屋



⑤ 中ゴー尾根分岐から谷川温泉方面



⑥ 赤とんぼが舞うオジカ沢の頭



⑦ 小障子の頭から避難小屋方面



⑧ 大障子避難小屋内部・私の空間



⑨ 大障子の頭・全くの霧の中



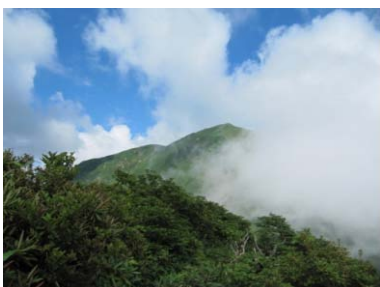
⑩ 万太郎山への登りのお花畑



⑪ 霧の中の万太郎山・山頂



⑫ エビス大黒の頭



⑬ 大黒の頭付近から仙の倉山



⑭ 仙の倉山・山頂…人がいた



⑮ 仙の倉山の下りから平標山



⑯ 平標山の下りから平標山の家

■ 谷川岳・霧の小丘～オジカ沢原～大塚子麓集小丘～万太郎山～仙の巻山～平瀬山 花の仲間たち



↑ クルマユリ



↑ アカバナシモツクソウ



↑ オニシオガマ?



↑ ヒメトラノオ?



↑ オオバギボウシ



■目的地までの交通機関・自動車コース

- 往路…中村橋＝5.50－池袋＝6.03/6.13（埼京線）大宮＝6.48/6.58（新幹線 谷川401号）上毛高原＝7.50 高原駅8.00－水上駅乗換8.23/8.25－谷川ロープウェイ＝8.45（平日8.00から）
- 帰路…平標山登山口バス（15.51-16.26）（16.38-18.35）－越後湯沢－（新幹線・大宮・池袋経由）－中村橋＝18.35-18.45

■登山コース・タイム

- 8月5日…天神平・1320m＝9.15－（0.45）－避難小屋＝10.00～10.10－（0.50）－天狗のたまり場＝11.00－（1.00）－天神ザンゲ岩＝12.00～12.10－（0.20）－肩の小屋＝12.30～12.40－（0.20）－中ゴ－尾根分岐＝13.00－（1.15）－オジカ沢の頭＝14.15～14.20－（0.50）－小障子の頭＝15.10－（0.20）－大障子避難小屋＝15.30
- 8月6日…避難小屋＝4.40－（1.30）－万太郎山（1954m）＝6.10～6.40－（0.40）－越路避難小屋＝7.20－（2.00）－エビス大黒の頭＝9.20～9.40－（0.40）－エビス避難小屋＝10.20－（1.00）－仙の倉山（2026m）＝11.20～11.30－（1.00）－平標山＝12.30－（0.40）－平標山の家＝13.10－（1.00）－林道＝14.10－（1.30）－バス停＝14.50

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「谷川岳・茂倉岳・蓬峠・朝日岳・白毛門」

（二〇一〇年 六月一〇・一二日）



↑ 朝日岳山頂から谷川岳・一の倉岳・茂倉岳・武能岳

● 登山口までのアクセス

高速の早割や通割引（それぞれ時間帯により半額）を利用する関係から、四時起き四時半の自宅出発となる。四時にはもう明るいが高速は車両少なくスムーズだ。駒寄SAのETC出入り口で早割をカウント、六時過ぎに水上ICを降りて通割適用、通い馴れた道を行き、土合駅・山の家先の無料駐車場に六時半に着く。

ロープウエーの始発は八時なので、久々にのんびりと、朝飯の準備しながらコーピーを飲む。おにぎりセツトと天ぷらそばで、朝から重い量の食事となった。七時半にケーブル駅を指して出発。

● 天神平から肩の小屋まで

ケーブル始発が遅れ八時二〇分に天神平を出発した。駅横の展望台から、白毛門・笠が岳・朝日岳の峰々が対岸に開ける。あそこまで歩くのか：遠い。シラネアオイやイワカガミなどの花に歓迎されながら、熊穴

沢の頭の避難小屋へ九時に到着、この季節、晴天でこの時間帯になると日差しが強く、猛烈に暑い。熱中症を警戒して半そでになり、水分も余計取る…これがあとで後悔するはめに（日焼けと水当り）。

谷川岳の双耳が見えながら高度が稼げない。右手のオジカ沢の頭から俎嶺（まないたぐら）の稜線、その向こうの万太郎山が視界に入ってくる。雪は沢筋のみのようだが、ピークには雲がかかっている。豊富な高山植物の歓迎に喜びながら（写真を撮るので少し休める）、天狗のたまり場、天狗ザンゲ岩を過ぎると、肩の小屋下の雪田に出る。雪はたっぷり残っている。

●肩の小屋からトマの耳・オキノの耳

肩の小屋に一〇時四〇分、天神平から休みを入れて二時間二〇分か。万太郎山方面への尾根筋の雪の具合を見ながら、トマの耳へ、写真を撮って、すぐオキノ耳へ。先行していたロープウエーで一緒だった二人組と話し合う。蓬ヒュツテの食事はおいしいとか…。

ここからは、明日廻る七つ小屋山から清水峠、長い登りに見える朝日岳への稜線、さらに笠が岳・白毛門までも一望できる。でも、天候がなんとなく怪しげになってきた。

●オキノ耳から一の倉岳へ

雪田の下で水を補給し飲んだので、空腹感を感じず、時間も少し早いので先へ急ぐ。ここからは登山再開後では未踏の領域にはいる（もっとも若い時…一の倉沢で岩登り後、稜線まで出て一の倉岳、肩の小屋経由で西黒尾根を下るのが一般的で、未踏ではないのだが）。

一の倉岳まで一時間と少し。さすがに登山者は誰もいなくなつた。岩稜が続く「ノゾキ」から一の倉沢へつゞり腰で覗くと、登つたことのある懐かしい烏帽子スラブが「真平」に見え、烏帽子奥壁が垂直に落ち込んでいる。登攀したことに、今更ながら驚く。

ガスが広がり始めた一の倉岳の登りに入る。わずか

な登りだか疲れが出できた。また、茂倉岳もガスの中だ。振りかえると万太郎から仙の倉山方面もガスが広がってきた。ただ、雷の積乱雲はなさそうだ。

●一の倉岳から茂倉岳へ

一の倉岳山頂から二〇分で茂倉岳に行けるようなので、写真を撮って通過：昔の記憶は何もない。堅炭岩への中芝新道の分岐があった。ここからは笹原のおやかな尾根が茂倉山まで続いている。口笛を吹く気分だが：どっこい、尾根道に一〇〇m近い雪田が現れ、誰も歩いた跡がない。でも、傾斜が緩くグス雪なので靴のキックとストックを使って渡った。

茂倉岳の山頂も一の倉岳と似て笹原の広場だった。この山頂からわずかで、水場のある大きめの避難小屋があるとのことだが、確かめる気力は残っていないかった。ここで空腹感が強まり、遅い昼食にする。

●茂倉岳から武能岳へ

茂倉岳からみると、これから目指す武能岳、さらに蓬峠まで、今までの男性的なゴツゴツ感の強い尾根筋とは違い、笹原の女性的な穏やかな丸みのある尾根や高原状の広がりが続いている。天候は怪しげだが引き続き、雷や雨の心配はなさそうだ。あと武能岳まで一時間四〇分、そこから蓬峠まで四〇分とガイドにある。

鞍部（一五九〇m）まで結構な下りが続く。武能岳（一七五九m）への登りは標高差一七〇mの登りだが、この時間帯ではとても辛い。先行きにうつすらと、明日迎る七つ小屋山や大源太山が見える。その右手が朝日岳か。三時少し過ぎに、最後の登りをこなし山頂にたどり着く。

●武能岳から蓬峠へ

山頂からは、蓬峠への今までも増して女性的な穏やかな広がりのある尾根筋に一条の道が蓬峠・ヒュツテへと続いている。疲れていてもいつまでも歩いていたいような道だ。登山道の真中にも咲いている花たち

を、踏みつづさないようにと、妙にやさしい気持ちになる。山の仲間だもの。

●蓬峠・蓬ヒュツテ

清水街道（旧道）の道を合わせると、蓬ヒュツテとテント場があった。テントが一張り、住人がいて挨拶する。小屋番がないという。もう四時だし、一泊二食付きの予約が通じていない…と不安になる。

小屋横の水場への道標を見て、ザックをおいて水場に行く、往復で二〇分近く、結構下るハメになった。そのおかげで雪溪からの冷たい水でウイスキーの水割りが頂ける。無人の小屋に入りツナコーンとかきピーをつまみに独り宴会を始める。残パンを夕食代わりにする。結局、小屋番は来ず、素泊まりとなった。小屋の寝袋と毛布を借りる（小屋番がないときは二〇〇〇円とある）。気温は下がらず、寒くはなかった。二〇時に寝て三時まで熟睡した。

●蓬峠から七つ小屋山

三時過ぎ目覚めてオシッコで外に出る。一面霧の中だった。まどろんでいると、四時前なのに薄明るくなり起きる。寝床を後片付けし、荷物をまとめて、非常食のエネルギーと残パンを腹に詰め込み、すっかり明るくなった外に出る。四時一〇分、小屋を後にする。

小屋裏の丘に登ると、東・北・西の谷川連峰が、早朝の清涼で澄み渡った青空のなかに浮かび上がっていた。気持ちがいい。これが山登りのだいご味の一つだと、改めて自分で納得する。

一〇分ほどで、見覚えのある「謙信ゆかりの道」の分岐に出た。七つ小屋山までは傾斜は緩いが結構長い道のりだ。朝露でズボンのすそがビチャビチャになるが、涼しくて快適に歩ける。濃い紫のカタクリの花が咲いていた。日の出を見ながら、小屋から一時間で山頂に着く。

●七つ小屋山から清水峠

山頂からは抜群の展望だ。見えなかった巻機山など越後や、平が岳や至仏山など会津・尾瀬の山々が連なる。朝霧がはれて山々は眼前にくっきりと広がっている。私の独り占めだ。

山頂からは清水峠までガイドでは五〇分とある。標高差で二〇〇m近い下りが待っていた。ここでシラネアオイやイワカガミやキジムシロなど、登山道にそって咲き誇り目を楽しませる。

●清水峠付近でルートミス

清水峠の前後で、ルートミスをしてしまった。最初は、清水峠手前のピークの登りにナイフエッジ状の雪田があり、そこを右下に回り込んでしまったことだ（実際は雪田を二〇mほど渡るのだから…ただ足跡がなかったように思う）。雪田の手前が下りの道だと思ったが、雪溪に削れた笹藪のガレ場だった。

ここで降り口まで戻るのが正解なのだが、その時の判断は：アイゼンをはいてストックを使い雪溪を下る（清水峠へ行く旧道が下に通っているはず）：ことにした。結果、笹藪のトラバースと雪溪の長い下りという「しごき」が待っていた。旧道が雪の切れ目に見つかった時はホッとした。清水峠の東電の監視所を過ぎ、避難小屋前に着いたのは、予定より三〇分も遅れて六時二〇分だった。ここで一息入れる。

二度目は、峠の分岐で朝日岳への道標を見落とし、左手の清水街道の旧道へ行ってしまったことだ。一分ほど行くも一向に登りにならない。左手への分岐が出てきて、地図を確認して誤りに気付く。分岐に戻ると七時一〇分だった。ここでも三〇分以上ロスする。

●清水峠からJ P・朝日岳

気力・体力のダメージを感じつつ、巻機山などの山々を背に朝日岳へのガイドの言う二時間四〇分の長丁場の登りに入る。送電線塔を過ぎると、巻機山か

らの尾根とのジャンクシヨンのピークが、ずくと先に見える。さほど急な登りではないが、八時を過ぎて気温が上がり体力を消耗する。ただ、シヤクナゲの群生地など、楽しみもあった。

一〇時ちょうどにJ Pの標識に着いた。休みを入れてすでに三時間近い。だが、もう標高一八〇〇mを超えており朝日岳は近いはず。なだらかな高原状の尾根筋を行くと、広い雪田がある。ここがガイドで言う「池塘が点在する…高山植物の宝庫」らしい。木道が出てきて「宝川温泉」への分岐に来ると、そのさらに先の小高い丘に、朝日岳の頂上を示す道標が見えてきた。一〇時二〇分にやっと山頂に到着した。

●朝日岳から笠が岳

山頂の展望はここも申し分ないが、気力・体力ともに萎え始めていて、感動までいかない。行動食（芋かりんとうやビスケット）を口にするが水と一緒に飲めないと飲み込めない。非常食のエネルギーを注入する。水

分取り過ぎなのか、やたら喉が渴く。

朝日岳から笠が岳までは、しばし、小さいアップダウンが続き、半分過ぎから一気に下る。笠が岳は標高一八五二mで、朝日岳との間にあるピークの方が高く、遠目では間違えそうだ。鞍部からつらいガレ場の登りをこなすと、避難小屋がありそこから少しで山頂にたどり着いた。

●笠が岳から白毛門

一二時に到着、もう六時間歩きまわった計算になる。笠が岳山頂からは谷川岳・一の倉岳が真正面だ。懐かしい「一の倉沢」や「幽の沢」の岩壁が望める。この時間帯では、霞が出て逆光気味で見栄えは良くない（何年前前に登った白毛門からは、朝早い時間だったのでクリアに見えた）。

笠が岳から白毛門へは、下りのなだらかな尾根が続いて見える。途中で残雪の道が出てくるが、ザクザク

の雪でキックを利かせれば問題ない。なだらかな道だが、何度かの休みを入れないと歩き続けられない。山頂手前の雪田を越して、やっと長細い山頂に着いた。

● 白毛門から松の木沢の頭

一三時二〇分、ガイドで五〇分のところ一時間二〇分も懸かっている。体力的に限界に近い。振りかえると笠が岳・朝日岳（見えるのは朝日岳の手前・大烏帽子のピーク）が、どっしりした山容を見せていた。

笠が岳を過ぎるあたりから、ヘリがやたら頭上を旋回している（実際は、谷川岳連峰の上空を偵察・調査）。白毛門の山頂から少しの間、岩場の下りや、鎖場・ガレ場など危ないところが続く。ヘリに監視されているような気分だ。岩場の下りで水場に出た。補充して、しっかりと飲んで、気合を入れなおした。松の木沢の頭を過ぎて、後は森林帯の長い下りが待っていた。土合の駐車場に着いたのは五時近かった。本当に疲れた。



① 関越・水上 I C から谷川岳



② 天神尾根から谷川岳



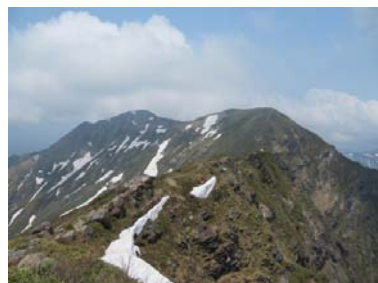
③ 肩の小屋下の雪田の登り



④ 谷川岳・トマの耳から朝日岳方面



⑤ トマの耳から万太郎山方面



⑥ オキの耳から一の倉岳・茂倉岳



⑦ 茂倉岳から武能山への稜線



⑧ 蓬峠のヒュッテ



⑨ 七つ小屋山登り・朝光の朝日岳



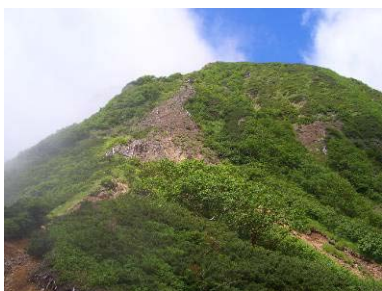
⑩ 清水峠の監視所と避難小屋(手前)



⑪ 朝日岳への登り・J Pが見える



⑫ 巻機山と越後の山々



⑬ 赤岳下りから霧の権現岳方面



⑭ 朝日岳・山頂で記念撮影



⑮ 笠が岳(手前)と谷川岳遠望



⑯ 白毛門から笠が岳(左)・朝日岳

■天神平～谷川岳 - 一の倉岳 - 祝園岳～蘆峰 - 雲水峠～朝日岳 - 白岩門～土合 の花の仲間たち



↑シラネアオイ



↑イワカガミ



↑ムラサキヤシオ



↑タムシバ



↑コアジサイ



↑? (雪室中)



↑アズマシャクナゲ



↑キシムシロ



↑?



↑ミネザクラ



↑ミツバオウレン



↑?



↑?



↑?



↑?



↑カタクリ



■目的地までの交通機関・自動車コース

- 往路…自宅=4.30-練馬-(98.5k・1.10) 駒寄=5.40 (42.5k・0.30) 水上=6.05-土合・駐車場=6.30 ロープウェイ土日7.00/平日8.00
- 帰路…土合=17.10-水上=17.30 (93.6k・1.00)-嵐山小川=18.40-47.4k・0.30) 練馬=19.20

■登山コース・タイム

- 6月10日…天神平・1320m=8.20-(0.40)-避難小屋=9.00~9.10-(1.10)-天神ザンゲ岩=10.20-(0.30)-肩の小屋=10.40-(0.20)-オキの耳・1977m=11.10~11.20-(1.10)-倉岳・1974m=12.30-(0.20)-茂倉岳・1977m=13.00~13.30-(1.40)-武能岳・1759m=15.10-(0.40)-蓬ヒュッテ 1529m=15.50
- 6月11日…蓬ヒュッテ=4.10-(1.00)-七ツ小屋山・1674m=5.10-(道迷い1.10)-清水峠=6.20~6.40-(道迷い0.30)-峠分岐=7.10-(2.40)-朝日岳・1945m=10.20~10.30-(1.30)-笠が岳・1852m=12.00~12.00-(0.50)-白毛門 1720m=13.20~13.30-(0.50)-松の木沢の頭=16.20-(2.20)-土合・駐車場=16.40

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「西黒尾根・谷川岳・天神平」

（二〇〇九年 六月二五日）



↑天神尾根・天神平近くから谷川岳と西黒尾根・上部

●今回は西黒尾根から

梅雨の合間の晴れを期待して「谷川岳：標高差約二〇〇m」に挑戦した。ロープウェー駅の駐車場に車を置いて、西黒尾根の登山口に七時に着く。前回の「マチガ沢の巖剛新道」に比べ、この下部分は深い森林帯の展望のない登りが続く。右手に見える天神平のロープウェー駅舎と同じくらいの高さになると樹林帯から抜け出し、鎖のある岩場が二ヶ所出てきた。ラクダの肩のピークに出ると尾根の上部が一举に開け、トマの耳・オキの耳の並んだピークが青空に聳えている。何箇所かの鎖の岩場や氷河跡といわれるスラブ状の岩場を過ぎると「ザング岩」に出て、その上の笹原を辿ると肩の小屋に出る。小屋からはなだらかな登りしばしで、トマの耳の山頂に出る。オキの耳で昼食をすませ、天神尾根を下る。イワカガミなどの高山植物が目を和ませてくれる。避難小屋を過ぎてからの巻き道から見る谷川岳は素晴らしい。尾根筋を廻り込むと天神平のスキー場のなだらかなスロープと、ロープウェー駅舎が見えてくる。



① 登山口付近・登山指導センター



② ラクダの肩手前の鎖・岩場



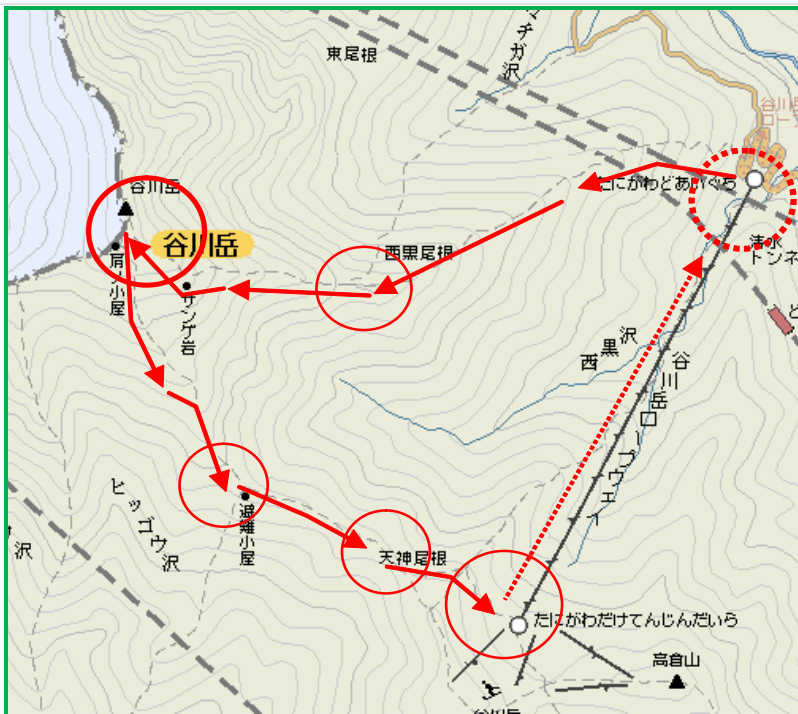
③ ラクダの背から谷川岳（トマノ耳・オキノ耳）を望む



④ オキノの耳・山頂での記念



⑤ 天神平・ロープウェー駅



■目的地までの交通機関・自動車コース

- 往路…自宅=4.30-練馬-(98.5k・1.10) 駒寄=5.40(42.5k・0.30) 水上=6.05-土合・駐車場=6.30 ロープウェイ土日7.00/平日8.00
- 帰路…ロープウェイ駐車場=15.00-水上=15.30(93.6k・1.00)-嵐山小川=17.00-47.4k・0.30) 練馬=17.30

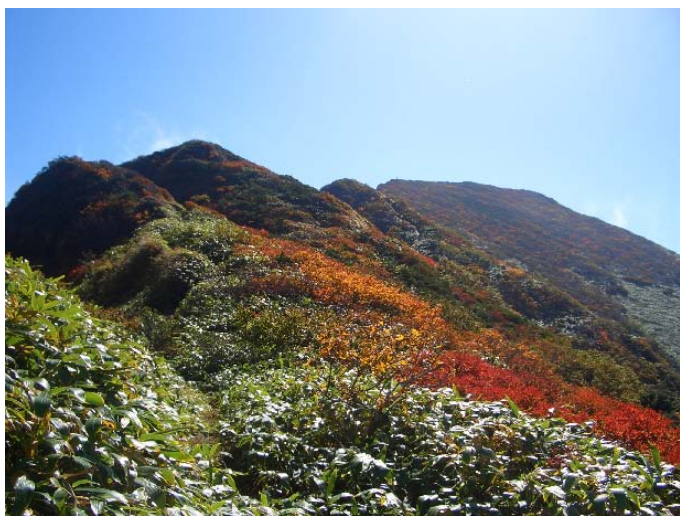
■登山コース・タイム

- 往路…駐車場=6.40-西黒尾根・登山口=7.00-(2.20)-ラクダの背=9.20~9.30-(0.50)-氷河跡=10.20-(0.30)-ザング岩=10.50-(0.30)-谷川岳トマの耳=11.20・オキの耳=11.40
- 復路…谷川岳=12.15-(0.25)-肩の小屋=12.40-(0.35)-天狗の踊り場=13.15-(0.25)-熊穴沢避難小屋=13.40-(0.40)-天神平=14.20-ロープウェイ・駐車場=14.30

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「土樽・吾策新道・万太郎山」

（二〇〇七年一〇月一〇日）



↑ 万太郎山・山頂への尾根筋の紅葉

●登山口までのアクセス

関越道・湯沢ICまでは大源太山の時と同じで知れたる道となる。大源太山方面へ左折せず土樽方面へ直進する。鉄道や高速道を跨いだり潜ったりとややこしい。「蓬沢のバス停」の上が土樽駅となっていた（駅が見えず直進して橋を渡ってしまった）。しばらく行つてから判り、戻つて「登山届け」を提出する。

鉄道を潜り、高速道と並行すると「茂倉新道」や「蓬新道」の登山口・駐車場方面（直進）への分岐に出る。今回の「万太郎山への吾策新道」は、橋を渡り高速道と並行して走り、高速道を潜ると「高速道の土樽SA」を右手に見て更に進む。途中に工事事務所などがあり、その先に登山者用の駐車場がある。

●登山入り口から大ベタテノ頭

駐車場から舗装林道に平行した仮設の歩行者道を進む。一旦林道に出て、少し先の正規の登山道に入る。

ガイドにある谷川新道分岐は見つからなかった。ここ（標高約七〇〇m）から大ベタテノ頭（同一五〇〇m）まで森林帯の登りが続く。九時に展望の開けた場所（多分大ベタテノ頭）に着く。休憩を入れて約二時間の登り。昨日の雨のせいもあるが、とにかく登山道が滑りやすく、笹が刈り取られた直後らしく道をふさぎ、歩きづらいことおびたらしい。

●大ベタテノ頭からの展望

森林限界を超えたらしく低木と笹原が続き、左右の展望が急に開けてきた。左手は、茂倉新道からの茂倉岳・一の倉岳・谷川岳の稜線が一望できる。さらに左手に、初夏に登った「大源太山から七つ小屋山」が見える。右手には、「平標新道からの平標山・仙の倉山」が見える。この日はこちら側は雲がたなびき、山頂や稜線が終日隠れていた。正面が万太郎山で左右に国境稜線が連なっている。春の大源太山（群馬・三国峠側）から見た稜線を逆側（新潟側）から見ている。

●大ベタテノ頭から万太郎山

大ベタテノ頭（ベタテとはどういう意味？）で、草刈のソーを持った登山道整備の工事二人が追いつく。この先の道の草・笹刈をするという（今までの道の刈られた笹はこの人たちの直近の整備だったのか）。

エネルギーを補充して一休みして出発する。万太郎山の前衛の岩峰が行く手に雄雄しくそそり立つ。山頂はあの先なのか、あと二時間以上のアルバイトがシンドク感じる。岩峰の左手の小高いピークから左手に瘦せた尾根続きを進み、岩峰の真下を通り右手に回り込む。笹が密集しており「完全な藪漕ぎ」状態になる。

昨日の雨で濡れている上に、傾斜がきつく笹の茎が滑りやすく、何度か滑り落ちる。数十分で腰下はグツショリ・ドロドロになる。藪漕ぎが終わると、今度は傾斜のキツイ岩稜（岩場）が待ち構えていた。結構な高度感が出るのでさすがにビビる。岩場が終わるとなだらかな稜線が山頂まで続き、右手の山肌の低木や草

原の紅葉がとても綺麗だ。悪戦苦闘して一一時四〇分に山頂に着く。

●万太郎山・細長い山頂

稜線に出ると山頂に道標があるのが見える。着いてみると山頂ではなかった。谷川岳への縦走の降り口で、山頂は細長く、反対端の仙の倉山への縦走路の降り口の方にあった。

山頂付近ではガスが広がり乳白色の真っ只中に居る。展望は全く無い。しばし食事でキリのはれるのを待つ。谷川岳側は時々霧が切れて縦走路が続くのが見える。仙の倉山方面はほとんど見えない。しかし、谷川岳から平標山への縦走はかなりのアップダウンが続く、テント・水・食料持参の重荷ではシンドそうだ。

●下り…紅葉と岩下りと笹刈の工事

山頂のキリは晴れそうも無いので下る。岩峰までの

なだらかな下りで「紅葉」楽しむ。この標高まで、その下の森林帯は全く色づいていない。登りでも苦労した岩場に差し掛かる。登山者が少ないせいかここでは鎖やロープはない。やっと下り終えると今度は笹藪漕ぎが待っていた。

下りは重心がかかるのもっと滑る。藪漕ぎを終えたところに、笹刈り工事の人とであった。一日違えば苦労せずにすんだかも…。大ベタテノ頭には二時になっていた。そこから登山口まで休みなしで下っても一時間四〇分近くかかった。足がガクガクになっていた。

●まとめ

下りに弱い…南アの各山行でもそうだったが、ガイド行程時間に比べ、登りはまずまず同じ時間なのに、下りはかなり多めにかかってしまう。中高年は下りで事故率が多いとのことで注意して下るようになっているせいもあるが、それにしてもかかり過ぎ。対策のしようがない（計画にこの特性を織り込んでおく）。

秋口は日帰りが不便…車での子来が夜明け前、夜間になってしまふ。心理的なあせりが出たり、昼間の行程にムリがでそうである遠出はあまりよくない。

行動食の改革…エネルギーなどの行動食は飽きた（非常食にはいいが）。羊羹も一口まで、甘納豆やゼリー・プラムや餅も少しならいいが日に何度もとなると飽きる。楽しく感じなければ。おにぎりやおいなりなどご飯ものの復活が必要かな…。ボンベ・水もちでラーメン・レトルトなども研究対象にすべきか…。



① 林道駐車場先・登山口



② 仙の倉・平標山の稜線を望む



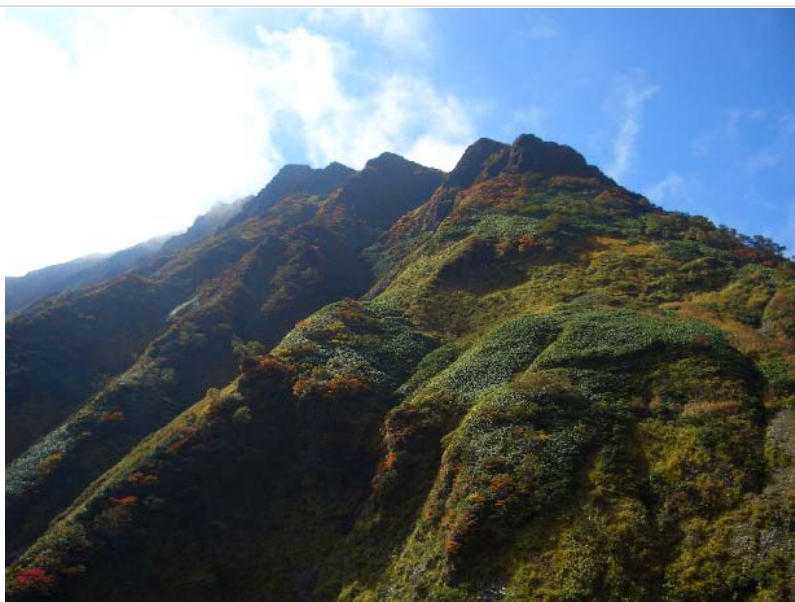
③ 茂倉岳・一の倉岳の稜線を望む



④ 縦走路分岐の道標



⑤ 万太郎山・山頂 霧の中



⑤万太郎山・山頂直下の岩峰群



⑥万太郎山・岩峰付近の紅葉



■ 目的地までの交通機関・自動車コース

● 往路…自宅＝3.40－関越・練馬 IC＝98.5km・1 時間 10 分－駒寄 PA (5.00・出入)－赤城高原 S A 休憩 68.5km・約 50 分－湯沢 IC＝6.00－(0.30)－吾策新道・駐車場＝6.40

● 帰路…駐車場＝15.50－湯沢 IC＝16.00－関越 97.4km・約 1 時間 15 分－本庄児玉・出入＝17.10－関越 69.6km・約 50 分－自宅＝18.20

■ 登山コース・タイム

● 往路…新道駐車場＝7.00－(2.00)－大ベタテノ頭＝8.00～8.20－(2.20)－万太郎山 (1954m)＝11.40～12.10

● 帰路…万太郎山＝12.10－(1.40)－大ベタテノ頭＝13.50～14.00－(1.30)－新道駐車場＝15.40

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「旭原・大源太山・七ツ小屋山」

（二〇〇七年六月二十八日）



↑ 上越・大源太山（七ツ小屋山への稜線から）

●登山口までのアクセス

赤城高原SAまでは何時も通り。関越道の長いトンネルを過ぎて「湯沢IC」で降りる。水上ICから湯沢ICの間は思いの外長く感じた（実際は一五十分いか）。湯沢の市街地（温泉街・スキーのホテル街？）を「大源太キャニオン」の道標を頼りに進む。キャニオン手前で「大源太山登山口（旭原）」の大きな案内板があり、その林道に入る。

林道の終点（湯沢ICから約二〇分）に駐車場があり、登山口の道標と届箱がある。ここの標高は七〇〇m（大源太山の山頂まで標高差約九〇〇m）。

●登山口から渡渉箇所

七時丁度の出発を目指し準備していると、別の車が来た（私が今日の一発の到着）。高崎の二人組みの方々が大源太山の往復と溪谷釣りをされるという。登山届けを出して先発する。

しばし林間の道を行くと、沢を渡る(昔は丸太橋で、今は工事現場の鉄パイプ組みと金属の渡板)。その先で、「謙信ゆかりの道」の分岐に出る。更に沢沿いを行くと「トラロープ」のある渡渉箇所に着く。ネットでは危ないとか落ちたとか書かれてあったが、余程の増水・濁流にならない限り問題ない。

●渡渉箇所から森林限界付近まで

渡渉箇所の先(対岸)のペンキ案内・文字が見えない道標を過ぎてから、ガイドにもある「トラロープ」のある一直線の登りが続く。白毛門の登りも一直線の登りだったが、こちらの方が登山道が、土崩れして滑りやすく、登りにくい。

樹林帯で風もなく景色も見えずの約30分ほど汗みどろの苦闘が続く。尾根筋に出て、ブナの新緑で周囲が明るくなり、左手がガレ場のところに出ると、先ほどの二人組が追いついてきた。

ここからは季節の「花々」が登山道の左右を彩る。辛い登りながらデジカメで撮りまくる。森林限界を過ぎると風が心地よく、また展望も、目的の大源太山から七ツ小屋山への稜線が開けてきた。

●森林限界から大源太山・山頂

展望の開けた稜線に出て山頂が見えているのに、約一時間かかってしまった。二人組みには置いていかれ、後からの単独者にも追い越された。花の写真撮りに時間をかけた…といえれば聞こえは良いが、かなり「バテ」た(後で考えてみたら途中「熱中症予防の水補充」ばかりで「シャリバテ」していたらしい)。

岩場(鎖場)を過ぎてようやく山頂に着いた(一〇時)。三六〇度の展望だが「高曇り」で遠望は霞がかかっていてシャープな山容は無理だった。でも、この位置からの上越国境の山々や、巻機山など越後の山々は、私にとって初めてとなる。

●大源太山から七ツ小屋山への稜線歩き

エネルギー補充・水補充して、人組みより先に出発する（一〇時二〇分）。岩混じりの痩せた尾根筋が少し続き、その先はスパツと切れ落ちていく。いよいよ山頂直下の急な岩場の下りに入る。鎖はあるが、足場を探るときに下を向くので高度感が出る。

二箇所鎖場が続き、さらにトラロープの岩場が二箇所続く。ロープ岩場の方がやや傾斜がゆるいが、ロープが頼りなげで、緊張は続く。多分、登りなら快適なのだろうが、何時ものことながら。下りでは手ばかり、足がかりに苦労する。

痩せた尾根だが傾斜が穏やかになりひと心地ついた。振り返ると大源太山の双耳が、更に行くと「上越のマッターホルン」といわれる鋭角の山容が望まれる。ここからまた一段と「花々」が背の低い笹原の中に出現してきた。ここから七ツ小屋山へのたおやかな稜線が開ける。清水峠からの道を合わせると山頂の道

標がポツンとみえる。山頂は稜線のちよつとしたピークに過ぎない（一二時）。この間も、思いの外時間がかかった。

山頂を過ぎるとまた、笹原の開けたいくつかのなだらかな丘の道が続く。清水峠のくびれから、対岸の朝日岳・笠が岳・白毛門へ続く稜線、足元から続く蓬峠・武能岳・茂倉岳の稜線が、霞か霧かに隠れたり現れたりしている。歩みは快適だ。

●謙信ゆかりの道分岐からシンゴヤの頭・駐車場

七ツ小屋山から謙信ゆかりの道分岐までが、快適・開放的な国境稜線だった。謙信ゆかりの道からシンゴヤの頭までも、これまでより多少のアップダウンはあるものの、右手に、今まで辿ってきた、鋭い山容の大源太山、たおやかな山容の七ツ小屋山を望むことが出来る。

左手のやや背後には、谷川岳への稜線とその右手に、

やはり鋭い山容（ピラミダル？）の「万太郎山」、た
おやかな山容の「仙の倉山・平標山」が望まれる。

この尾根筋にも花が多い。ニッコウキスゲもつぼみ
（？）始め、なかには気早く咲いているものあった。
ハクサンチドリの紫も映えていた。

●まとめ：花々が歓迎してくれた

平標・仙の倉山でも多くの花々に出合ったが、ここ
大源太山・七ツ小屋山も多かった。五月の中旬から
六月の下旬という時期的なズレ、同じ上越国境でも地
域的なズレ、があるからか、同じ花と出合うばかりで
なく、新しい種に出合う：写真を撮り、名前を調べる
楽しみが続く（今回も⁴四日調査、覚えた花も増えた）。

この季節、上越の山は暑い、湿度が高い。樹林帯の
登り、降りには「さながら蒸し風呂」のようだった。し
かもブヨがしつこい。上越は楽しみも苦しみも満杯：



① 難所だという渡渉箇所



② 大源太山への稜線（岩・鎖場から）



③大源太山・山頂



④ セツ小屋山方面への岩場の降り



⑤ からセツ小屋山



⑥ シシゴヤノ頭から武能岳方面



⑦ 謙信ゆかりの道の分岐点



⑧ 登山口・駐車場

■大原太山からセツ小豆山の絶縁、鎌倉ゆかりの道、…に咲いていた花々 <07.06.28 現在>:



↑ウツシオヨウラク



↑ハナニガナ



↑アカモノ (イワハゼ)



↑ゴゼンタチバナ



↑タチヤマリンドウ



↑ヨツバシオガマ



↑コノハガマズミ



↑マイルソウ



↑モミジカマツ



↑タニウツギ



↑オニアザミ



↑ニッコウキスゲ



↑ハクサンチドリ



↑コバイケソウ



↑オオハナネウシ



↑イワカガミ



■目的地までの交通機関・自動車コース

●往路…自宅=4.00-関越・練馬 IC=98.5km・1時間10分-駒寄 PA (5.15・出入)-赤城高原 SA 休憩・68.5km・約50分-湯沢 IC=6.20-大源太キャニオン經由旭原の先-林道終点・駐車場=6.40

●帰路…駐車場=15.50-湯沢 IC=16.10-関越 97.4Km・約1時間15分・上里 SA15分-本庄児玉・出入=17.40-関越 69.6Km・約50分-自宅=16.30

■登山コース・タイム

●往路…林道終点・駐車場=7.00-(丸木橋經由 0.30)-渡渉点=7.30-(2.30)-大源太山 (1598m) =10.00~10.20

●帰路…大源太山=10.20-(1.40)-七ツ小屋山 (1674m) =12.00~12.10-(0.40)-謙信ゆかりの道・分岐=12.50-(0.40)-シシゴヤの頭=13.30~13.45-(丸木橋經由 2.00)-駐車場=15.30

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「土合・巖剛新道・谷川岳・天神平」

（二〇〇七年六月一二日）



↑ マチガ沢出会い・巖剛新道登山口

●登山口までのアクセス

五月の白毛門の時と全く同じ要領だ。赤城高原SAを五時四五分に出たら、水上ICに通勤割対象の六時少し過ぎに着いた。朝の車の少ない二九一号線を飛ばし、前回の駐車場を過ぎて、ロープウェー駅の駐車場に入る（六時四〇分頃）。もう同じ目的の車と人が到着していた。

●マチガ沢出会い・巖剛新道の見晴台

ロープウェー駅周辺は、数年前にバスで来たときと全く違っていた。駐車場（前もあった）と駅がなくなっていた。山岳指導センターの場所やマチガ沢・一の倉沢への旧道がわからずあわてた。

登山届けを出し、西黒尾根の登山口を過ぎて、左手に回り込むと、マチガ沢の駐車場に着く。既に多くのマイカー観光客が来ていた。その先が巖剛新道の登山口だった。シャツ一枚になる。

しばらくはマチガ沢本谷と並行する枝沢沿いの道を行く。登山道が沢になっている。ここでも花が綺麗に咲いていた（登りのお花ロード）。一時間もかからずに「見晴台」に着いた。マチガ沢には残雪が多く、スキーをしている人が見えた。ここでこれからの本格的な登り（約三時間）に備えてエネルギーを補充する。

●見晴台からガレ沢の頭

ガイドによれば、ここからが本格的な登り、鎖場もある。確かに展望のない直線的な登りが続き、岩場には鎖の登りもあったが、さほど悪戦苦闘したと思えない。道が右に巻くようになると、青空が間近に広がり、ひよっこりとガレ沢の頭に飛び出した。

西黒尾根のここからの登りには何人かの登山者がいた。ここでは西黒尾根・下部から登ってきた三人組に出会う。左手には天神尾根と天神平のロープウェー駅が見えた。マチガ沢の源頭には谷川岳（トマの耳・オキの耳）が見える。しかし、ここからはまだ遠いし

高い。ここでも水分とエネルギーを補充して三人組の後を登り始める。晴天はありがたく、風も心地良いが、さすが暑い。

●西黒尾根から肩の広場

岩尾根歩きは展望がよく快適だが、岩からの照り返しで暑い。熱中症予防で水分を十分取っているので、汗がほとばしる。しかもブヨがしつこくまとわりつく。ガイドで警告していた岩場・鎖場も何のことはなく、勾配のゆるくなった笹原を行くと雪田の肩の広場이었다。トマの耳に人が群れているのが見えた。

●谷川岳・トマの耳…オキの耳往復

トマの耳は満員状態なので、写真だけにして、オキの耳へいく。二〇分ほどだがここまでの疲れでシンドイ。トマの耳で写真を撮り昼食（といっても例のエネルギーとゼリー・饅頭など行動食）。標高差一三〇〇m位・休憩二度入れて、五時間近い行動でまざまず

ここからは一の倉岳・芝倉岳の稜線、万太郎山・仙の倉山への稜線が一望できる。背後には白毛門・笠が岳・朝日岳の稜線、さらに右手には上州武尊岳、尾瀬の至仏山・燧ヶ岳も…。

●肩の広場から天神尾根

肩の広場の雪田は、ロープ沿いにつけられたステップにあわせて慎重に下る。結構な雪量だった。下の岩道には雪解けの水が流れていた。ガイドではここから避難小屋まで一時間近くとある。

ここも注意して下ると「お花ロード」だった。白い花の咲く木の「タムシバ」と一緒に咲いている、紅紫の花の木を「ムラサキヤシオ」としたが？ その他、「白色のイワカガミ」や初めて見た「ハクサンコザクラ」が楽しませてくれた。

途中、組品（まないたぐら）の特徴ある稜線と、幕岩が右手に見える。途中岩場が何箇所もあり、鎖を使

つての下りとなった。西日の当たる尾根筋でも熱かった。私より年配と思われる男の二人組みがいきよよく追い越していった（その速さに驚き）。予定通り一時間で避難小屋、いわお新道の分岐についた。

●天神平・ロープウエー駅・駐車場

熊穴沢の頭の避難小屋から天神山の山腹を巻くように岩混じりの幅広の道、さらに木の道が続いており快適に下る。途中、谷川岳（トマの耳・オキの耳）が正面に見えるところが、思わず写真を撮る。田尻尾根の下山道を分岐するとロープウエー駅の広場に出る。随分と変わってしまった（駅舎も新しくなり、レストランも出来ていた）。下りのロープウエーは二〇〇円だった。

花たちは今回もさまざまな顔を見せてくれた。平標山の時と同じ顔ぶれ（シヤクナゲ・ツツジ・アジサイなど）も多く、別種と思われるものを撮影し調べてみた。（？）は定かでない名称。



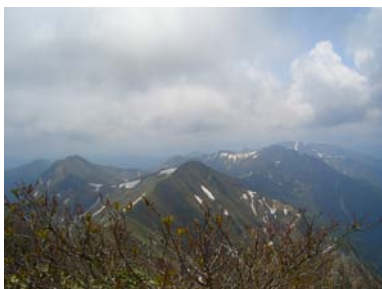
① ガレ沢の頭から天神平方面



②西黒尾根の上部 鎖の岩場



③肩の広場手前からの谷川岳の双耳



④ オジカ沢の頭・万太郎山・仙の倉山



⑤天神尾根からのロープウェー駅



⑥ オキの耳・一の倉岳・芝倉岳

⑦ 巖剛新道～谷川岳～天神平 の花たち



↑コイワカガミ



↑ミヤマスマミレ？



↑ハクサンコザクラ



↑ムラサキヤシオ？



↑マイズルソウ？



■目的地までの交通機関・自動車コース

●往路… 自宅=4.00-関越・練馬 IC=98.5km-駒寄 PA (5.20・出入) -赤城高原 S A 休憩・42.5km-水上 IC=6.05-291 号線・20km-ロープウェイ・駐車場=6.30

●帰路… 駐車場=15.30-J A 農産物直売所-水上 IC=84.9km-花園 IC (出入)=17.30-練馬 IC=18.30

■登山コース・タイム

●往路… 駐車場=6.40-(0.30)-マチガ沢出会=7.10-(1.00)-第一展望台=8.10~8.30-(1.10)-ガレ沢の頭=9.40~9.50-(1.40)-肩の広場-トマの耳=11.30-(0.20)-オキの耳・谷川岳 (1977m) =11.50~12.10

●帰路… 谷川岳=12.10-(0.20)-トマの耳・肩の小屋=12.30-(1.00)-熊穴沢ノ頭避難小屋=13.30-(0.40)-天神平駅=14.10~14.30-ロープウェイ・駐車場=14.40

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「平標山・仙の倉山・平標小屋」

（二〇〇七年六月五日）



↑ 松手山・山頂付近からの平標山への尾根筋

●登山口までのアクセス

前回の、三国峠・大源太山はトンネル手前（群馬側）に駐車、今回はトンネルをくぐり、出口の新潟側の駐車場を確認しつつ、土産物屋や商店街のある浅貝を通り、苗場スキー場（苗場プリンス）の広い駐車場を左手に見ながらさらに進む。やや登りの半隋道を通りまたくだりに入ると、右手に学校が見えその先に「平標山登山口」の駐車場の案内がある（私は通り過ぎてＵターンした）。

月夜野ＩＣを割引対象となる六時少し過ぎに出て、国道一七号を快適に走り、七時少し前に登山口の駐車場に着いた。

●登山口から巨大鉄塔下…ひたすら登り

駐車場には既に一〇台近い車が止まっていた。七時少し過ぎに出発する。ここの標高は一〇〇〇m近い。平標山まで、標高差一〇〇〇mの登りとなる。

登山道をしばらく行くと、動物の動く気配がして「鈴」を激しく鳴らす。笹が動き、威嚇する様なうなり声が出た。熊か？…。鈴を鳴らしながら静かに登り続けると、何かの目線を感じそちらを見ると、ねずみ色の毛の大人の「さる」が倒木の上に座ってこちらを見ていた。ボスらしい。あいつか！…。安心した。

サルとの出会いの先から、ブナやミズナラの新緑の中、木で作られた階段が続く。これが意外とシンドイ。登りながら振り返ると苗場スキー場ののホテル、真下は別荘地、左手は前回の大源太山から三国山の稜線、また正面にはまだ雪のある苗場山が見える。

● 鉄塔から松手山…高山植物との出会い

鉄塔が見えるようになると、足元に高山植物の花が出現し、単調な登りを慰めてくれる。鉄塔下に一時間ちよいで到着、標高は一四〇〇mあった。ここからは木階段はあるもののキツイ登りはなくなり、次々と出現する「可愛い花々」の撮影に忙しくなる。木々の背

丈が低くなり、やがて森林限界に近づくと、松手山の山頂に到着、足元から平標山への尾根道が見えてきた。

● 松手山から平標山

松手山からは展望の開けた広い尾根筋のなだらかな登りに行く。きつい陽射しもなく尾根筋を渡る風が心地よい。背の低い笹原が続く中に、ここでも所々に花々が群れて咲いていた。こんなに可愛く綺麗に咲いている花々なのに、登りの辛さを紛らわしてくれているのに、私はその名前すら知らない…。知っているのは奥秩父で出会ったシャクナゲ位だ（こちらはあまり密集していない）。

平標山への登りは、見えていてなだらかなのだが、なかなか辿り着かない。背の低いサクラ(?)が満開だった。仙の倉山方面が見え始めた最後の登りを喘ぐと、山頂にひよっこり出た。花の撮影に時間がかかり一〇時半の到着。実質約三時間の登り。

山頂からは北（新湯）側の苗場山方面の遠望や、通り過ぎた松手山に続く松手尾根、足元からの平標新道（尾根）、雪に埋まっている西ゼン・東ゼンが見えた。東は仙の倉山が霧に隠れたり、現れたりしている。その先は霞がかって見えない。南（群馬）側の大源太山・三国峠方面は完全に霧・雲の中だった。

鉄塔下でのエネルギー補充だけで空腹感が募る。ここで昼代わりのエネルギー補充、行動食の新顔の一口饅頭・果物ゼリーなど頂く。

●仙の倉山往復

仙の倉山へはガイドでは往復一時間半余とある。標高差はたいしたことなさそうだが距離はありそうだ。霧が流れて展望が利かない。山頂から木の階段を下る。途中から岩だらけで木杭を抜いてある整備中の道となる。鞍部から平標山を振り返ると、左手山腹に残雪があった。

一つ目のピークを越すとさらに小さなピークが続く。階段登りで息継ぎをしていたら女性の登山者に追い越された。最後の登りをこなすとあまり広くない山頂に出る。

山頂には、万太郎山方面へ出発していった三人組のほか、寝ている人、食事している人、先ほど追い越していった女性のみだった。霧のため展望は利かない。万太郎への稜線、谷川岳、一の倉岳など、白毛門とは逆の位置からの展望が欲しかった。帰りの時間を計算して早々に戻る。

平標山への戻りは、霧の稜線に行く。陽射しは全く涼しいので歩みがはかどる。この往復では、高山植物の花々はほとんど見かけなかった（標高一八〇〇m～二〇〇〇m）。時期がまだ、早すぎるのかもしれない。

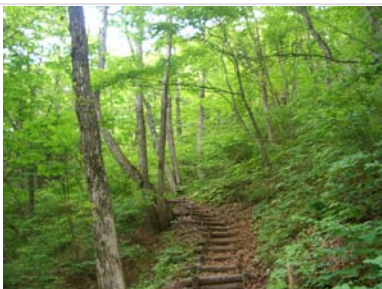
●平標山から山の家・平元新道・林道

平標山で、もう一度行動食を頂く。靴の紐を締めなおして一二時四〇分に出発。登山口の駐車場まで二時間と少し（一五時前に着く）を予定する。

山頂から木の階段のくだりが続く。登りもしんどいが下りも辛い。振り返ると平標山も仙の倉山も霧の中に隠れていた。赤谷川の支流のまだ雪の残る沢を左手に見ながら下る。新潟側の仙の倉谷の西ゼン・東ゼンもそうだが、こちらもなだらかな沢筋となっている。三〇分ほどで山の家の赤い屋根が見えた。

山の家は立て替えられたばかりという。冷たい水を頂き、平元新道を下る。山の家の荷物はここをボツカするのだろうか。新緑に輝く樹林帯に入り、木杵組みの整備された道を下る。

五〇分ほどで沢沿いの林道に出る。かえる（？）の合唱がうるさいほどだ。ダートの林道を行き、ゲート過ぎから舗装された別荘地の道に変わる。いい加減歩き飽きた頃、駐車場に続く道に着いた。



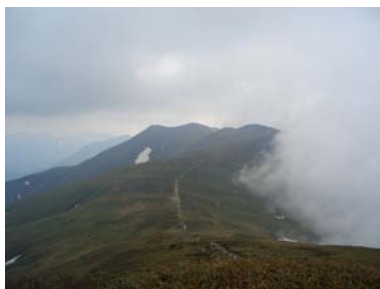
① 駐車場先・登山道の入り口



② 巨大鉄塔（送電）下広場



③ 松手山・山頂…苗場山を望む



④ 平標山側から見た 仙の倉山



⑤ 仙の倉山側から見た 平標山



⑥ 平標山から山の家への下り



⑦ 平標山の家



⑧ 平標山・登山口駐車場トイレ

■平標山への 登山道で見た 花の仲間たち



↑イワハヒ (アカモノ)



↑イワハヒ (アカモノ)



↑コアササイ



↑ヤマツツシ



↑ニガイチゴ



↑ニガイチゴ



↑イワカガミ



↑イワナシ



↑ヨツバオウレン



↑シクネアオイ



↑キシムシロ



↑ミネザクワ



↑アズマシヤクナゲ



↑アズマシヤクナゲ



↑アズマシヤクナゲ



↑ガクアササイ



■目的地までの交通機関・自動車コース

●往路…自宅＝4.00－関越・練馬 IC－98.5km－駒寄 PA (5.20・出入)－32.6km
 一月夜野 IC＝6.10－17号線・40km・0.50－湯沢町町営・駐車場＝7.00

●帰路…駐車場＝15.00－17号線・40km－一月夜野 IC＝15.50－赤城高原・休
 91.7km－東松山 IC (出入)＝17.05－39.4km－練馬 IC・自宅＝17.50

■登山コース・タイム

●往路… 駐車場＝7.10－ (1.10)－鉄塔＝8.20－ (1.00)－松手山＝9.10－
 (1.20)－平標山 (1983m)＝10.30～10.50－ (0.50)－仙の倉山 (2026m)
 ＝11.35～11.45

●復路…仙の倉山＝11.45－ (0.45)－平標山＝12.30～12.40－ (0.30)－平標
 山の家＝13.05－ (0.45)－林道出会＝13.50－ (1.40)－駐車場＝14.45～15.00

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「三国峠・三国山・大源太山」

（二〇〇七年五月二日）



↑大源太山・山頂からの平標山（左）・仙の倉山

●登山口までのアクセス

前回の白毛門の時と同じように、駒寄PAで出入り作業をして早朝割引の対象になる。今回は水上ICまで行かず、月夜野ICを六時過ぎに降り、通勤割引の対象になる。時間調整のため今回も「赤城高原SA」でトイレ休憩・朝食を済ませる。

月夜野ICからは、バイパス的な道路を一七号まで行き、約二〇分ほどで、猿ヶ京の温泉街に入る。帰りに予定している「日帰り温泉・まんてん星の湯」の位置確認をする。ここから国道はやや狭くなり、法師温泉への道を分け、国道が曲がりくねり、急勾配になると三国トンネルの入り口の「管理事務所の駐車場」に着いた。先着の方がいて挨拶する（この後、山道で何度か会う）。長靴姿なので地元の人かと思う。

●登山口から三国峠・三国山へ

橋を渡りトンネル手前の右手の登山道から三国峠

を指す。沢筋の明るい道を行く。今日も晴天で暑くなりそうだ。沢から離れ山肌を巻くように登ると、三国峠に着く。新潟側から登られたという七〇歳台後半の元気なご夫婦に会う。

峠の神社を右手から巻き、木の階段の道を登る。汗が吹き出るが、黄色や紫色の小さな花に慰められる。三国山の中腹(写真)のベンチから、新潟側の湯沢の温泉街や雪を頂く苗場山が見えた。

●三国山から三角山へ

三角山の直下はガレ場で木の階段が組まれ、両側は植生のためか養生されていた。三角山は上州側の展望だけで、アブが多く早々に退却、三角山への尾根道に出る。行く手に、国境の雪化粧している平標山・仙の倉山が見え、その手前に「大源太山」が見えた。

尾根道は多少のアップダウンはあるものの、展望に恵まれ、また登山道の左右に小さな黄色の花が続いて

咲いており、快適な歩きとなった(時折、残雪の箇所がでてくるが歩きに支障はない)。

●大源太山・山頂の展望

大源太山がぐっと近づくと、三角山の頂上に着く。湯沢の「浅貝」への下り道を分け、左手に巻くように行くと、平標山の家への道から、右手の「大源太山・山頂」を行く。ここで先ほどの駐車場であった単独の方と出会う。これから平標山の家を往復して戻るといふ。別れて、さらに行くと二〇分ほどで山頂に出た。

三六〇度の展望とはこのことをいう。改めて、南・西の上州・信州側の山々(実はほとんど知らない)、北の越後の「苗場山」、足元から続く尾根の先の、上越国境の「平標山」「仙の倉山」、「万太郎山」、その東側に連なる「谷川岳」、その山間に見える「白毛門・笠が岳」の稜線、上州武尊山、さらに荒船山まで…。

天候狙いの日程組みをしているせいもあり、先週の

白毛門からの谷川岳（マチガ沢・一の倉沢・幽の沢）の展望といい、今回のこの国境の山々の展望といい、本当に天候に恵まれた。ここでエネルギー補充、スポドリも 500cc2 本（こ）までで飲み干した（熱中症予防のため）。水に入れ替える。

● 帰りの残雪でアイゼントレーニング

雲行きが群馬側から怪しくなり始める…と云っても雨の心配はなさそう。三角山から三国山の尾根道はガイドに、行きも帰りも同じ時間とある。行きとは逆向きの景色を見ながらアップダウンを繰り返す。

途中の残雪と続きの泥道の登りで、アイゼンとストックの使い勝手を試す。三国山下の峠への近道を辿り、長い木の階段を下る。中腹のベンチで、先ほどの単独の方（前橋の在だとか）に追いつかれる。峠から計画を変更してそのまま登山口に下った。

帰りは、峠から一五分ほどの猿ヶ京の日帰り温泉

「まんてん星の湯」で汗を流す。内湯はさほどでなかったが、赤谷湖を望む四種類の露天風呂がなかなかのものであった。ここから新治村の道の駅で買い物をして月夜野ICに四時過ぎにはいる。東松山ICで出入り作業して通勤割引を受ける。六時には帰宅できた。

■ このコースで出会った五月中・下旬に咲く花々

草原に群生…とまでいかないが、登山道や木の階段の左右に黄色（エチゴキジムシロ？）や紫色（シラネアオイ？）の小さな花が何輪かまとまって咲いており、登りの辛さを慰めてくれる。

下の写真の花々の名前は、インターネットで調べたものだが確実でない。谷川岳（上越国境）プロジェクトとして取り組む以上、いづれ腰を落ち着けて調べ知りたいものだ。



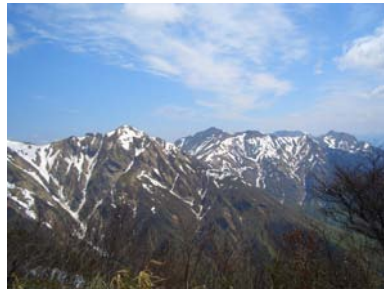
①三国峠上から苗場山方面を望む



②三国峠上から三国山への道



③ 三国山から大源太山に続く尾根道



④大源太山から谷川岳方面を望む



⑨帰り道・三角山から三国山方面



⑩三国山トンネル・群馬側の入り口

この山域の花



エチゴギジムシロ



シラネアオイ



タムシバ



ガクアジサイ



コイワカガミ



■目的地までの交通機関・自動車コース

●往路… 自宅=4.00—関越・練馬 IC—98.5km—駒寄 PA (5.30・出入)—(赤城高原休憩・32.5km)—月夜野 IC=6.10—17号線・約30km・40分—三国峠トンネル入り口付近・駐車場=6.45

●帰路… 駐車場=14.30—猿ヶ京・まんてん星の湯 (~15.30+0.30)—月夜野 IC—91.7km—東松山 IC (出入)=17.10—(0.40)—練馬 IC・自宅=18.00~

■登山コース・タイム

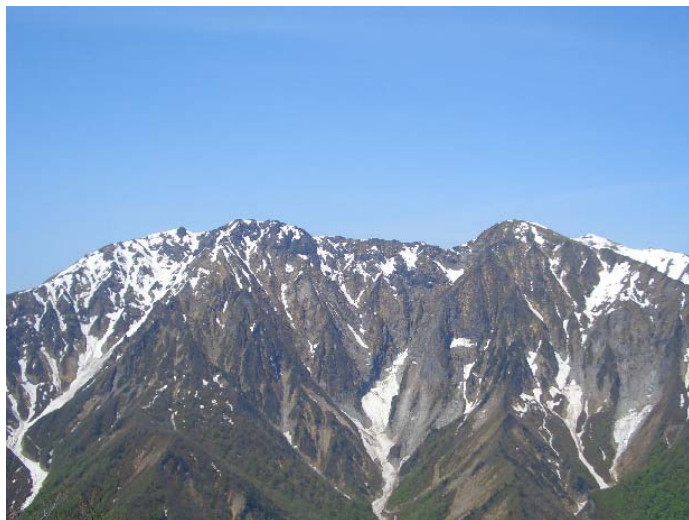
●往路… 三国トンネル・駐車場=7.00—(0.40)—三国峠=7.40—(1.00)—三国山 (1636m)=8.40—(1.30)—三角山=10.10—(0.30)—大源太山 (1764m)=10.40~11.10

●帰路… 大源太山=11.10—(1.30)—三国山・まき道=12.40—(0.30+0.10)—三国峠=13.20—(0.30)—三国トンネル・駐車場=13.50

一、谷川連峰（上越国境）の山々

「土合・白毛門・土合」

（二〇〇七年五月一六日）



↑松ノ木沢頭からマチガ沢（左）・一の倉沢（中）・幽の沢

●登山口までのアクセス

自宅を四時少し前に出る。関越道の利用は、入口まで一〇分ほどで気が楽だ。割引制度を最大限活用する。まず早割（五〇%オフ）活用のため「練馬IC」から入り「駒寄PA」で高速を一旦出る。同じ所から入り「水上IC」まで通勤割引（五〇%オフ）を活用する（ただし水上ICを六時過ぎに通過するよう調整する必要がある）。通常の約半額となる。帰りは水上く花園（五時過ぎに出る必要あり）の通勤割引だけ。

「駒寄PA」はサービスエリアの端に「ETC専用」の出入りゲートがあり、数秒で出入りが完了する。余計な時間がかからず便利だ。休憩や買い物・飲食は「赤城高原SA」の方が便利。

水上ICを降りて谷川岳方面に進む。途中で左に猿ヶ京方面を分け、水上駅を過ぎて、右に藤原湖・宝川温泉方面を分ける。湯檜曾駅を左に、土合駅を右に見て、駐車場（標高約七〇〇m）に着く。

●登山口から湾曲した大木

駐車場の奥へ進むと案内板と白毛門への道標と登山届の箱がありその先に白毛門沢の流れを渡る橋がある。登り始めはブナの新緑がとても美しい。今年初めて「緑らしい緑〓陽に輝く若葉だ」。

谷川岳の残雪の多いマチガ沢を、左手に垣間見ながら尾根筋の登りが続く。ガイドにある様に木の根を頼りに登るといった急勾配が一時間余り続いた。白毛門沢の滝が見える、湾曲した大木のある広場に出て一休みする。左手には一の倉沢が見えている。

●大木から松ノ木沢の頭

大木の広場から先は、緩やかな尾根の樹間の道を行う。足元の小さな花や、石楠花や名も知らぬ白い花が、登山道の左右に咲き春を感じさせる。右手に武能岳の丸山沢(?)の雪解けの凄い水量の沢筋が見える。左手にはスキー場のある天神平が同じ高さに見える。森

林限界に近づいてきて、展望がさらに広がり開放的な気分になる。約一時間半で松ノ木沢の頭(二四八四m)に着く。(後から知ったが)谷川岳のマチガ沢・一の倉沢・幽の沢の正面展望(パノラマ)は、ここが一番と思う。さらに太陽の位置からは午前中が最適だ。

●松ノ木沢の頭から白毛門・山頂

松ノ木沢の頭で、単独の登山者に会う。もう山頂を往復してきたという。早いと思ったら高崎の在の人だった。私もエネルギーを補充する(朝はSAでソバを食べ、大木でエネルギーを補充した)。

上部の登山道が雪溪に埋もれているらしい。いよいよアイゼンとストックが必要になるか。雪の量は話ほどでもないが、折角用意してきた道具なので試してみる。春の雪はグズグズでアイゼンが気持ちよく効くという感じではない。足元から切れ落ちるような勾配がきつい場所では、高度感もあり緊張を強いられる。

雪溪の部分を抜けると、雪解けの流れで滑りやすくなった岩道や、雪溪の際を行く登山道がでてきた。アイゼンやストックが逆に邪魔になり外す（また使う場所があるかと思いい手に持って登る）。岩場の道が多くなり鎖場も出てきた。どれがジジ岩かババ岩かわからないうちに、程なく山頂に着く。

●山頂の展望

まだまだ残雪の多い、天神平から谷川岳・一の倉沢・茂倉岳・武能岳など上越国境の山々（山間に万太郎・仙の倉の山並みも）が紺碧の空の下、連なっている。蓬峠で一旦標高を下げ、七つ小屋山へはまた登りとなる。目前に足元から続く笠ヶ岳・朝日岳が迫るように見える。縦走路の尾根筋もかなり雪が深い。

これら国境の山々もさることながら、上州武尊山や日光白根山、尾瀬の至仏山・燧ヶ岳がやはり雪を頂いてそびえている。尾瀬の左手には、平ヶ岳・越後駒ヶ岳・巻機山の稜線が続く。

山頂で独りエネルギー補充していると単独行の人が続いて到着した。先の方はそのまま笠ヶ岳・朝日岳の方へ向かったらしい。

●白毛門の下りは険しい

山頂からの下りは、アイゼンもストックも仕舞い込み、両手をフリーにして慎重に下る。雪で登山道が痛めつけられたようで、ルートがハッキリしないところや、崩れたところが多く、頂上直下からしばらくは高度感も出るの（下りには）極めて危ない。

ご夫婦のパーティーに出会う。その後、道を間違え藪漕ぎで登り返す。雪溪のためアイゼンを使わなければならぬところは結果としてなかった。松ノ木沢の頭まで、ガイドでは四〇分とあるが慎重に下り一時間かかった。ホッとして最後のパノラマを楽しむ。

ガイドではこの松ノ木沢の頭から駐車場まで一時間半とある。登りと下りの時間差が一時間もあってい

かに急勾配の上り下りかの証明……。靴の紐を締めなおして下る。登りでは気づかなかった花々の美しさが慰めとなる。ここにも石楠花が咲いている。昨年のも奥秩父（甲武信ヶ岳から十文字峠）を思い出す（こちらは、密集はしていない）。一時間ほどで大木の広場に出た。そこから40分ほどで橋のある河原に降り立ち、汗を流した。

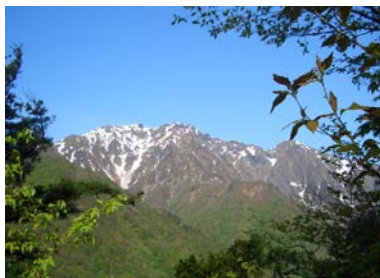
●まとめ

奥秩父と谷川岳（今回は白毛門）の森林限界は随分と違う。奥秩父は二五〇〇m近くに森林限界がある。谷川岳周辺は一五〇〇m位が森林限界のようだ。そのうえこちらは名だたる豪雪地帯だ。残雪は多いし、雪解け後の登山道（特に森林限界以上の）はかなり荒れていることがわかった。

一四時三〇分駐車場発のため、時間余裕があり、日帰り温泉：湯・テルメに寄る。露天風呂がなかなか良かった（後で気がついたが時計を忘れた……安物だが）。



① 白毛門・登山口のブナの新緑



② 辛い登りを慰める谷川岳の稜線



③ 松ノ木沢の頭



④ 白毛門から笠ヶ岳・朝日岳



⑤ 白毛門から燧ヶ岳・至仏山



⑥ 白毛門から上州・武尊山



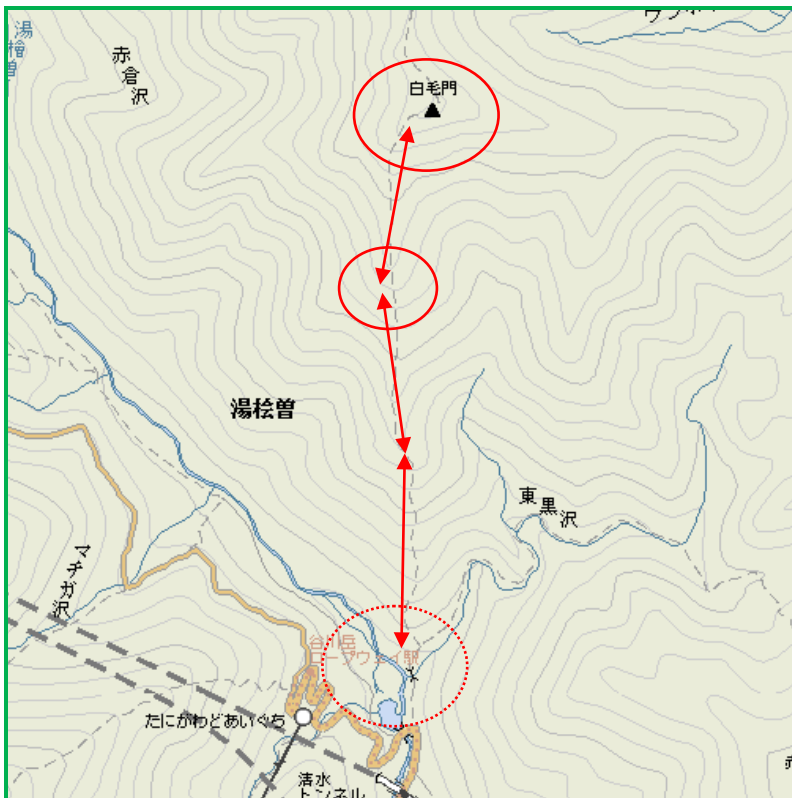
⑦ シャクナゲ



⑧ タムシバ



⑨ 谷川温泉・日帰りの湯



■ 目的地までの交通機関・自動車コース

● 往路… 自宅=4.00—関越・練馬 IC—98.5km—駒寄 PA (5.30・出入)—42.5km—水上 IC=6.10—291号線・20km—土合橋・駐車場=6.30

● 帰路… 駐車場=15.00—テルメ (~15.45)—水上 IC—84.9km—花園 IC (出入)=17.20—練馬=16.10

■ 登山コース・タイム

● 往路… 駐車場=6.50— (2.40)—松ノ木沢ノ頭=9.30~10.00— (1.00)—白毛門 (1720m)=11.00

● 帰路… 白毛門=11.00~11.30— (1.00)—松ノ木沢ノ頭=12.30— (1.40)—駐車場=14.10~14.30

二、尾瀬・会津の山々

二、尾瀬・会津の山々

「尾瀬Ⅱ山の鼻・至仏山・鳩待峠」

(二〇〇七年一〇月二三日)



↑山ノ鼻・尾瀬植物研究見本園から見る「至仏山」

●登山口までのアクセス

自宅を四時三〇分に出る。練馬ICから関越に乗り、例によって早割りのため「駒寄PA」で出入りする。この季節、五時半過ぎないと明るくならない。赤城高原SAで時間調整し、今日のエネルギー源のおにぎりをかう。沼田ICには六時少し過ぎに出て通勤割引とする。往きの高速代がこれで半額になる。沼田からは一二〇号線(ロマンチック街道)で片品温泉・吹き割りの滝を通り鎌田で四〇一号線(沼田街道)に入り「戸倉」に着く。

自家用車の通行規制時(昨日一〇月二一日まで)にはこの駐車場にとめマイクロバスで鳩待峠に登る。今日は解除初日で、前後の車もそのまま峠を目指す。登るに連れて紅葉が綺麗だ。朝日に映えている。駐車場はこの時間で、ほぼ満車に近かった。平日なのに管理人が居て、次々来る車を誘導していた。駐車料金も結構高い。

●鳩待峠から山の鼻・尾瀬植物研究見本園

写真で何度も見た鳩待峠に着く。道標に導かれて、尾瀬ヶ原方面に入る。川上川沿いに木の道が続くが、日の当たらないところは一部凍っていたり、霜が降りていたりで滑って危なっかしい。

山の鼻近くの木橋を渡る付近では川沿いの紅葉が朝日に際立っていた。ビクターセンターや至仏山荘の建物の前のベンチで朝食にする。四〇数年前に〇君と彼の妹と私でここまで来たことを思い出した(この時の至仏山荘のカラーの写真が残っている)。

●見本園から至仏山

植物見本園に入ると草紅葉の広い高原(園内・写真)に出る。この季節もいいが春や初夏はさらに素晴らしいのだろう。正面には裾に樹林が広がる、優しい感じのなだらかな至仏山が見える。

登りは木道・木段・石段と一直線の登りが続く。水の道でもあり土の出で居るところは滑りやすい。森林限界が意外と低くまもなく視界の開けるベンチに到着した。鳩待峠から至仏山に登りここへ下山してきた人に会う。振り返ると尾瀬ヶ原が眼下に広がり、そのさきに燧ヶ岳が男性的な山容(写真)を見せていた。

●至仏山・山頂と三六〇度の展望

森林限界を超え展望が開けると「裸地」といわれている土の露出したり、岩の崩れたところ…人の手で養生されている…が多くなる。傾斜がゆるくなり「高天の原」に着く。山頂近くを思わせるが、そこから右手に巻き気味に木道が続きさすがにへたる。

鳩待峠から四時間、山の鼻から約三時間超で山頂に着く。二〇人近くの人たちが昼食を取っていた。山の鼻からの登山者は私の前後の四く五人だったので、鳩待峠からの往復登山者なのだろう。

山頂・道標の上に展望盤があり、その助けを借りて山座同定をする。「燧ヶ岳」の右手遠方に「会津駒ヶ岳」が、続いて手前に「平ヶ岳」が見える。その右手遠方には「越後駒ヶ岳」かその手前にある「中岳」、そして「八海山」、更に右手に「巻機山」、「谷川岳」が続く。谷川岳からの上越国境の山々はその裏側で見えない（帰ってから地図で確認した。）

●至仏山から小至仏山

山頂はラッシュだったので休憩・昼食は先へ伸ばす。小至仏山への稜線は、見かけによらず岩混じりの小さな上り下りが続き、休憩なしは身体にはいささか辛ドイ。途中のピークの岩陰には雪が結構残っていた。風の少ない鞍部でエネルギー補充する。振り返れば、こちらからも至仏山のおやかな山容が見えた。これから登る小至仏山のピークの上には、秋の雲が広がっていた。

小至仏山のピークも団体に占拠されていた。明日登

る予定の「上州・武尊山」の特徴ある稜線が見える。ここから先に分岐のある「笠ヶ岳」もピラミダルな山容を見せていた。ここからも尾瀬ヶ原の一部と燧ヶ岳が見える。振り返ると至仏山を見えた。こうして同時に見比べてみると、燧ヶ岳は男性的に荒々しく、至仏山は女性的にたおやかで、対照的な山容だ。

●笠ヶ岳分岐・オヤマ沢田代・鳩待峠

小至仏山からの下りは木道・木段が続き、オヤマ沢田代の湿原まで見えている。楽な下り続きでベンチのある休憩所にする。先ほどの団体さんがここでも占拠していた。休まず進むと、笠ヶ岳への分岐に出て、その先にオヤマ沢田代の湿原が現れた。その先からは森林帯に入り紅葉の木々の道を気持ちよく歩いた。「ナカマドの赤い実」が常緑樹の緑をバックに際立っていた。鳩待峠まではキツイ下りもなく楽な一時間だった。人声が聞こえ、ロッジ風の屋根が見えるとそこは鳩待峠だった。

鳩待峠の駐車場から「戸倉」に戻り、途中コンビニによってビールとつまみを調達する。四〇一号线（日本ロマンチック街道）の鎌田で金精峠からの道を合わせ、平川で右折し六四号线（奥利根湯けむり街道）を通り「花咲の湯」（日帰り温泉）でさっぱりする。

六四号线を進みトンネルを抜けると右手に「川場谷野営場」の道標がある。ダートの林道をゆっくりと一五分くらい進むと、結構広い駐車場に出た。ここが野営場で避難小屋・トイレもあつた（残念ながら水場は近くにない）。

紅葉を楽しみながら林道を行くと、黒い物体が車から二〇mほど先に見えた。物音に気づいて動き出した。動作はまさしくテレビや動物園で見たことのある「熊」に違いない。ただし、図体は大きくなかった（子熊？…近くに親熊が居る？）。写真を撮る暇もなく林道脇の斜面を登っていった。山で初めて「熊」をみた。

●まとめ

尾瀬が多くの人に親しまれている、尾瀬ヶ原・尾瀬沼の散策が人気のあるのもわかる。水芭蕉など本命の花の季節はなおさらだろう（混雑は別にして）。

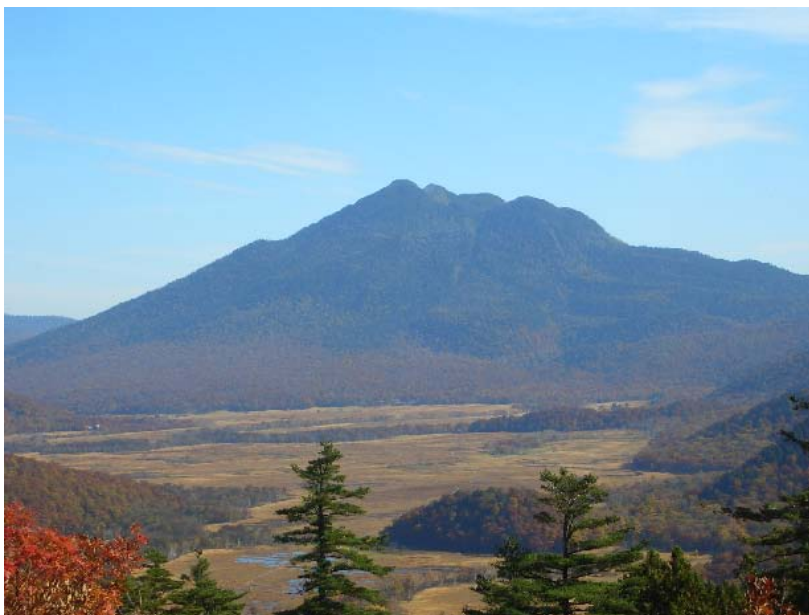
登山でも「燧ヶ岳」にはぜひ登ってみたい。やはり会津・桜枝岐からだろう。そして会津駒ヶ岳・平ヶ岳も登ってみたい。さらに今日山頂から見た、新潟側の越後駒ヶ岳・中岳・八海山、巻機山、また、群馬側の明日の武尊山の向かい側にある「皇海山」も…来年の課題に。



① 鳩待峠・尾瀬ヶ原への入口



② 山ノ鼻・尾瀬植物研究見本園



③ 登山道から見た尾瀬ヶ原・燧ヶ岳



④ 至仏山・山頂



⑤ 山頂で登頂記念



⑥ 稜線から至仏山を振り返る



⑦ これから迎える小至仏山と秋の雲



⑧ 鳩待峠の休憩所・バス停・駐車場



⑨ 鳩待峠から戸倉への道の紅葉



■目的地までの交通機関・自動車コース

●往路…自宅=4.30—関越・練馬 IC—(98.5km・1.10)—駒寄 PA (5.40・出入)
—(27.3km・0.30)—沼田 IC=6.10—(120・401 号線・39km+12km・1.10)
—鳩待峠・駐車場=7.20

●帰路…鳩待峠・駐車場=14.30—(0.20)—戸倉—(0.30+花咲湯 1.00)—
川場谷・駐車場(車中泊)=16.40

■登山コース・タイム

●往路…鳩待峠(1591m)=7.30—(0.50)—山ノ鼻=8.20~8.40—(3.10)
—至仏山(2228m)=11.50

●帰路…至仏山=11.50~12.10—(0.40)—小至仏山(2162m)=12.50—(0.30)
—オヤマ沢田代=13.20—(1.00)—鳩待峠・駐車場=14.20—(コンビニ・花
咲の湯)—川場谷野営場・駐車場=16.40

二、尾瀬・会津の山々

「上州川場・上州武尊山・川場」

(二〇〇七年一〇月二三日)



↑霧に浮かぶ「日本武尊命」像 (武尊山・山頂近く)

●登山口までのアクセス

尾瀬・至仏山に登り、鳩待ち峠に下山。駐車場から「戸倉」に戻り、途中コンビニによってビールとつまみを調達する。四〇一号线(日本ロマンチック街道)の鎌田で金精峠からの道を合わせ、平川で右折し64号線(奥利根湯けむり街道)を通り「花咲の湯」(日帰り温泉)でさっぱりする。六四号線を進みトンネルを抜けると右手に「川場谷野営場」の道標がある。ダートの林道をゆつくりと一五分くらい進むと、結構広い駐車場に出た。ここが野営場で避難小屋・トイレもあった(残念ながら水場は近くにない)。

●野営場から前武尊

車中泊でまだ真つ暗な三時半に起き、もう寝れない(無理もない、夕べは七時には横になり寝入っていた)。車内で寝床を片付けたり着替えたりして四時には外に出る。ガスボンベでお湯を沸かし、まずコーヒ一杯。味噌汁と五目ご飯(アルファ米…朝食)と

梅わかめご飯(同・昼食)を作る。後片付けして五時に出発した。

まだ真つ暗な野営場を後にして林道を進む。風が時々強く吹き、木々のざわめきに、原始的な恐怖感を呼び起こされビビる。不動岳への分岐ではまだ暗く、空に星はなく曇天に変わっていた。天狗尾根の稜線近くなってやっと明るくなってきた。樹林帯のなだらかな稜線を進み、思いの外早くスキー場からの道と出会った。霧の中で笹と泥の道を苦労して登ると、後を追いかけてくる登山者がいた。先に行ってもらい、本格的に降り始めた雨の中、前武尊に到着した。金属製の屋根柱があり日本武尊像が祭られていた。

●前武尊から剣が峰・家の串・中岳・武尊山

雨と霧で展望は全くない。先の男性登山者(後で聞いたら足利の人・同年輩の様子)と、この雨の中を先に進むか迷う。私は時間も早い(七時半過ぎ)ので行くというと、彼も一緒ということになった。ガイ

ドでは武尊山・山頂まで二時間と少し。帰りも同じとみて一二時にはここへ戻れると踏んだ。

前武尊から笹が深くなりグツシヨリと濡れる。滑って歩き難い。霧の中に浮かんだ岩峰を巻いて、山肌に露出している笹の根が滑る。時折強まる風に煽られながら行く。霧が流れこも滑りやすくなった岩の痩せ尾根を慎重に進む。晴れていたら高度感が出て怖いだろう。二〜三箇所このような岩稜の痩せた尾根筋を通り過ぎた。

ちよつとしたピークの「家の串」を通過し、武尊牧場からの道を合わせる「中岳ジャンクション」に着く。ここから下り気味に、右手に山肌を巻くように進む。何しろ霧が深く風が吹き上げるので見通しが全く利かない。途中、笹清水(菩薩界の水)や三つ池の窪地(池塘)を通る。晴れていれば見栄えするだろう。

山頂近くを思わせる岩峰に近づくと並ぶようにして「日本武尊像」(このレポート冒頭の写真)が霧の

中から浮かび、一瞬たじろぐ。ここから更に左手に巻き気味に登ると、先に行っていた彼の登山者が風を避けて食事していた。そこからすぐ山頂だった。写真で見た山頂の道標があった。やっと登頂記念写真を撮る。

●武尊山く前武尊・スキー場分岐・川場谷野宮場

彼の登山者と寒さに凍えながら昼食とする。アルファ米ご飯はとても食べる気がしない。エネルギーと甘納豆をいくつか口にして済ます。とにかく寒く手が凍える。靴の中も水気が滲み込んでジクジクしている。動いていないと体が固まる。

ほとんど休まずに中岳・家の串のピーク、何箇所かの痩せた岩尾根、危険な剣が峰の岩峰の巻き道、山肌の歩き難い滑りやすい笹の斜面の道と、手足が泥だらけ、身体全体がびしょ濡れになりながら、必死になって通過した。一二時に予定通り、前武尊に着いてホッとした。彼の登山者とまた出会い、健闘をたたえる。

スキー場に陽がさしていた。尾瀬方面も見える。ここから紅葉の素晴らしい道をゆつくりと下った。ナナカマドの紅葉が常緑の木々と対照されて映えていた。落ち葉がかさかさ音を立ててついでにきた。林道に出て、予定通り二時に駐車場に着いた。

●まとめ

車中泊の食事は面倒がってラーメン餅にしたのが失敗。朝のアルファ米・ご飯はいささかしんどかった（半分しか食えず）。昼用のそれも手付かずエネルギーで代用した。山の天気は変わりやすい。ここ戸倉・川場は、出発前は月々水の三ヶ日は晴天、晴れ時々曇りの予報だった。初日は予報どおり。晴天だった。二日は風が強まり霧と雨の登山となった。

帰りに白沢の道の駅の「望郷の湯」（日帰りの湯）による予定が、直接、関越の沼田IC近くに出でしまい、湯には入れず、高速の通勤割引には早すぎで、明るいうちに帰宅となった。



① 川場谷野営場の避難小屋・駐車場



② 前武尊山への道・スキー場分岐



③ 前武尊山・山頂



④ 武尊山・山頂



⑤ 武尊山・山頂



⑥ 中岳付近の池塘



⑦ 上から見た オグナ武尊スキー場



⑧ 川場谷の紅葉



■目的地までの交通機関・自動車コース

●往路…自宅＝4.30－関越・練馬 IC－(98.5km・1.10)－駒寄 PA (5.40・出入)－(27.3km・0.30)－沼田 IC＝6.10－(120・401 号線・39km+12km・1.00+0.20)－鳩待峠・駐車場＝7.30

●帰路…川場野営場・駐車場＝14.30－(20km・0.30)－沼田 IC＝15.00－(上里 SA 立ち寄り・125km・2.00)－練馬 IC・自宅＝17.20

■登山コース・タイム

●往路…川場野営場・駐車場＝5.00－(1.40)－スキー場との分岐＝6.40－(0.50)－前武尊＝7.30～7.40－(0.50)－家の串＝8.30－(0.30)－中ノ岳＝9.00－(0.40)－武尊山 (2158m)＝9.40

●帰路…武尊山＝9.40～9.50－(1.50)－前武尊＝11.40～12.00－(2.00)－川場野営場・駐車場＝14.00

二、尾瀬・会津の山々

(尾瀬・燧ヶ岳)

(尾瀬ヶ原)

(会津駒ヶ岳)

三、越後の山々

(巻機山)

(八海山・越後駒ヶ岳・中ノ岳)

(平ヶ岳・浅草岳・守門岳)

